

# 農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

豊かな郷土づくりを目指して

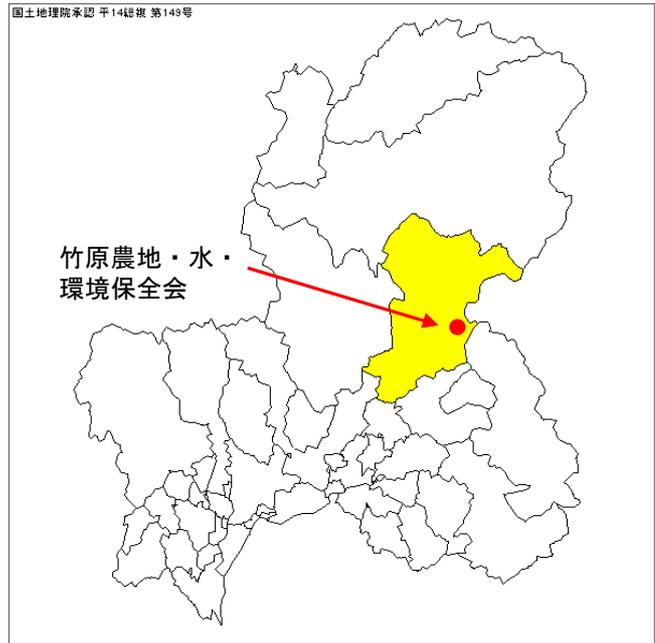
受賞者 たけはらのうち みず かんきょう ほぜん かい 竹原農地・水・環境保全会  
ぎふけんげろし  
(岐阜県下呂市)

## ■ 地域の沿革と概要

下呂市は、岐阜県の中東部に位置し、飛騨木曾川国定公園や県立自然公園に指定されるなど自然豊かな地域である。日本三名泉の一つの下呂温泉には、年間約100万人の観光客が訪れている。山林が市の面積の91%を占め、河川に沿った平坦地とゆるやかな斜面を利用して、農業地、商業地、住宅地などが混在しており、農用地は2%である。

竹原地区は下呂市の東南に位置し、みまやの のじり みやぢ のりまさ 御厩野、野尻、宮地、乗政の4つの集落からなり、昭和の合併（昭和30年）以前の岐阜県益田郡竹原村である。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

竹原地区は、昭和30年代までは養蚕が盛んで桑畑が広がっていたが、養蚕業の衰退で、こんにやく芋等に作付けを転換した。

昭和30年代後半からは、寒暖差の大きい気候条件を活かした夏秋トマトの栽培が盛んになり、現在は下呂市内で随一のトマト産地となっている。

また、近年では豊かな水を利用したこだわりの栽培方法によって、ブランド米の生産が行われている。

第1表 地区の概要

事 項	内 容	
地区の規模	集落の集合体	
地区の性格	機能的な集団等	
農 家 率 (内訳)		27.0%
※ 竹原地区	総世帯数	1,075戸
	総農家数	290戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家	17戸
※ 竹原地区	1種兼業農家	12戸
	2種兼業農家	91戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	85,121ha
※ 下呂市	耕地面積	1,180ha
	田	826ha
	畑	357ha
	耕地率	1.4%
	農家一戸当たり耕地面積	0.9ha

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

竹原地区は、昭和30年と平成16年の2度の市町村合併で、①旧竹原村の地域の連帯感や住民同士の意思疎通が希薄になること、②代々受け継がれてきた農村景観、農村伝統文化が失われていくこと、③営農意欲の低下を招く鳥獣被害の拡大、耕作放棄地の増加等、集落機能を維持していくために解決すべき課題が山積していることから、御厩野、野尻、宮地、乗政の4集落の自治会長等が、地域ぐるみのむらづくりを推進していくことが必要であると考えようになっていた。

平成19年度に始まった「農地・水・環境保全向上対策」に取り組むため、平成19年4月に4集落の自治会が、それぞれ「御厩野ふるさと会」、「野尻花の里済美隊<sup>せいびたい</sup>」、「宮地ふるさと環境保全会」、「ふるさと乗政を守る会」を結成し、同時に4つの組織間の情報共有と農村の環境保全を更に充実させるため「竹原農地・水・環境保全会」を設立した。

### (2) むらづくりの推進体制

#### ア 組織体制、構成員の状況

竹原農地・水・環境保全会は、御厩野ふるさと会、野尻花の里済美隊、宮地ふるさと環境保全会、ふるさと乗政を守る会の各4組織の代表者が推進メンバーで、全住民が構成員である。

#### イ 連携してむらづくりを行う組織

竹原農地・水・環境保全会の各4組織は、自治会長、婦人会長、子ども育成会長などの各種団体の長が役員となっており、これらの各種団体の活動方針が各組織の活動、ひいては、竹原農地・水・環境保全会の活動に反映されている。

#### ウ むらづくりに関して連携する他の組織、団体

##### ① 鳳凰座保存会（会員35名）

江戸時代中期から竹原地区に伝わる農村歌舞伎を保存するために組織化された。構成員は、竹原地区の小学生から88歳までの幅広い世代からなる演者が中心である。



写真1 鳳凰座

##### ② ディベロップ・ボランティア・クラブ（会員30名）

乗政地区に自生する国の天然記念物シダレグリの保存・管理活動に加えて、シダレグリまつりの企画・運営、南北街道（下呂～東山道中津川）の保存・管理活動を行っている。

##### ③ 大威徳寺跡保存会（会員20名）

御厩野地区にある県指定文化財の大威徳寺跡の調査研究、史跡の適正管理、周辺道路の改良、国指定文化財への指定に向けた要望活動、大威徳寺周辺の発掘調査を行っている。

##### ④ 有限会社下呂特産加工

昭和62年に地域特産品の製造と販売を目的に御厩野地区に設立され

た食品製造企業である。こんにゃく、トマトジュース等を製造し、生協を通じて東京方面に販売している。ジュースのパックには、地域の間伐材を原料とした紙缶を使用している。

また、平成11年には竹原地区内に下呂特産直売所を設置し、販売を通じて地域の特産品のPR活動を行っている。

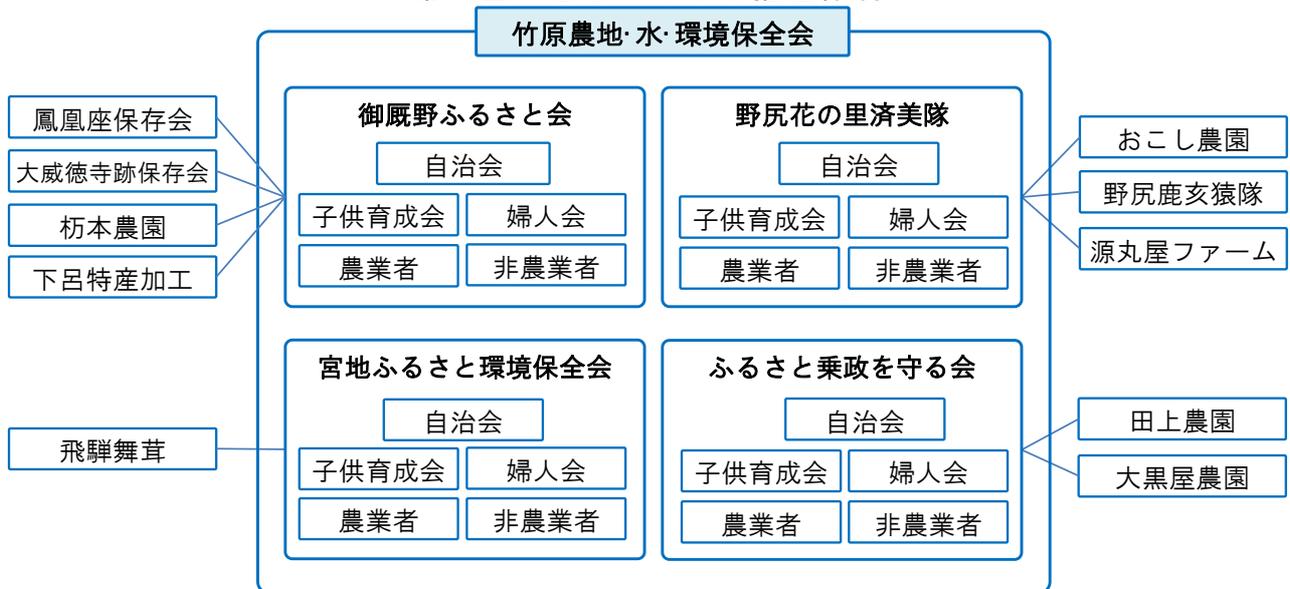
⑤ **J A ひだ南益田直売所**

地域の要望を受け、昭和63年に竹原地区内に開設した下呂市内で初めてとなる直売所で、竹原地区で生産された農産物及び農産加工品を中心に販売しており、農家の収入増加につながっている。また、少量でも販売できることから、高齢者の生きがいと健康維持にもつながっている。



写真2 野菜苗の販売

第2図 むらづくりの推進体制



■ むらづくりの特色と優位性

1. むらづくりの性格

竹原農地・水・環境保全会設立後、地区のテーマを「美しい田園・頑張る農村！」として、農村環境保全活動に加えて、竹原農地・水・環境保全かわら版の発行、竹原見どころMAPの発行、農村ウォーキングの実施、ふれあい農園・共同農園の設置、農村歌舞伎の継承、農村文化の継承、都市住民との交流に取り組んでいる。

2. 農業生産面における特徴

(1) 農林漁業生産、流通面の取組状況

ア 米

野尻地区の合資会社源丸屋ファームは、地域の水田農業の担い手とし

て、地区内農地の約11haを集約している。ほ場ごとに施肥や水管理を適切に行う栽培法で、コシヒカリの約1.5倍の粒の大きさである「いのちの壺」(商品名：銀の<sup>ぎん</sup> <sup>みかづき</sup> 朧)を栽培し、数々の全国レベルの食味コンクールで入賞し、地域の米のブランド化に貢献している。

## イ トマト

野尻地区の有限会社おこし農園は、昭和30年代に飛騨地域のトマト栽培先駆者として雨よけハウス栽培を開始した。現在、野菜苗、花苗や野菜のネット販売、観光農園(野菜狩り)を行っている。農薬を極力使わないこだわりの農産物には全国各地に顧客がおり、下呂市産農産物のPRに一役買っている。

乗政地区の合資会社大黒屋農園は、水稻、トマト、菌床しいたけ、野菜苗の生産販売を行う農業生産法人で、トマト2.8ha、菌床しいたけ20万ブロックは下呂市内で最大の経営規模である。地域住民を常時雇用で19名、臨時雇用で25名を雇用しており、地域の雇用の確保に寄与している。

御厩野地区の<sup>とちもと</sup> 枋本農園は、1.2haの畑で観光農園(フルーツトマト狩り)を経営しており、期間中に約3,000人の入込客数がある。県外からの客が多く、都市住民の交流の場となっている。

## ウ ブルーベリー

乗政地区の田上農園は、エコファーマーの認定を受けており、50aの畑で約1,700本のブルーベリーを栽培している。

観光農園には、ブルーベリー狩りを目的として約2,000人の入込客があり、都市住民の交流の場となっている。

また、ジャムやジュースを開発するほか、地ビール製造業者と連携してブルーベリーの発泡酒を開発し、ネット販売で全国の消費者にブルーベリーの加工品を販売している。



写真3 観光農園

## エ こんにゃく

竹原地区では昭和30年代からこんにゃく芋の生産が始まり、地区の製造業者によりこんにゃくが製造・販売されている。生芋から丁寧にすりおろして作る製法のこんにゃくは、歯ざわりが滑らかで、おいしいと評判である。

株式会社マンナン工房ひだが、岐阜大学と共同で冷凍用こんにゃくを開発し、6次産業化ファンドの出資を受けて地区内に製造工場を建設する予定で、地域雇用の拡大や原料となるこんにゃく芋の生産拡大が期待される。

## オ 舞茸

宮地地区の有限会社飛騨舞茸は、岐阜県内から産出される多孔質で吸

着作用があり、ミネラル溶出量が多いといわれる麦飯石を利用して浄化した水を使用し舞茸生産を行っている。箱詰め、パック詰めなどの農業体験も行っており、都市住民との交流の場となっている。

## (2) 生産力の向上、生産・流通基盤の整備等への寄与状況

各地区住民の共同作業により、農道と農業用排水路が適切に維持管理され、農業生産力の向上に寄与している。

また、野尻花の里済美隊は、平成21年に鳥獣捕獲組織「野尻鹿亥猿隊」を組織し、隊員の定期巡回、追い払い、捕獲活動により鳥獣被害を減少させ、営農意欲の向上につながっている。



写真4 野尻鹿亥猿隊

## (3) 後継者の育成・確保状況

耕作放棄地を再生して整備したふれあい農園等は、世代を超えた農業体験の場や、子供世代が農業・農村に関心を持つ場となっている。

また、小学校での出前講義、田んぼや川の生き物調査を行うことによって、地区の子供たちが農村を大切にする意識を育んでいる。

さらに、地区内の県指導農業士の農業者が、就農希望者を受け入れてトマト栽培の研修を行っている。平成20年から平成26年までに13名を受け入れ、これらの研修生のうち2名は地区内に就農し、残りの者は全て下呂市内に就農している。

## 3. 生活・環境整備面における特徴

### (1) 生活・環境整備面の取組状況

#### ア 農村環境保全活動の実施

各組織が、水路の土砂上げ、畦畔の除草などの基礎活動に加え、農道・水路等の補修などの向上活動に取り組んでいる。

#### イ 竹原農地・水・環境保全かわら版の発行

年4回、1回当たり1,250部を発行し、地区の全戸、小・中学校、行政機関等に配布し、地域の活動内容を紹介している。

かわら版の発行により地区内の活動の情報共有が図られているほか、地域資源の再発見、再認識の場となり、地域活動の道具となっている。

また、4つの組織それぞれの活動が広報されるため、各組織間のむらづくり活動に競争心が生まれ、お互いに切磋琢磨しながら活動を行うことで、むらづくりの意識の向上に寄与している。

## ウ 農村ウォーキングの実施

平成19年から、農村ウォーキングを春と秋に行っている。当初は地区住民の情報共有と地域資源の再確認をするための取組であったが、現在は地区外からの参加者も募り、竹原地区の魅力発信と、地区外住民との交流の場となっている。地区外から参加者が訪れるため、水路の清掃・改修、畦畔の除草、家の周りの花飾りなどに取り組み、農村環境が飛躍的に向上している。



写真5 農村ウォーキング

## (2) コミュニティ活動の強化、伝統文化の継承、都市住民との交流への寄与状況

### ア ふれあい農園・子ども会畑・共同農園の設置

耕作放棄地を再生させて、3か所に農園（滝ヶ洞ふれあい農園：約700㎡、子ども会畑：約200㎡、共同農園：約700㎡）を設置している。

これらの農園は、行けばいつでも誰かと交流が図れる場「青空公民館」と名付けられ、農作業を通じて世代を超えた住民交流の場を創出している。



写真6 ふれあい農園

農園での活動によって、子供たちの農業に対する理解が深まるとともに、子供たちの元気な声が響き、地区の活性化につながっている。

### イ 農村歌舞伎の継承

鳳凰座保存会が中心となり、江戸時代中期から伝わる農村歌舞伎を鳳凰座と共に継承している。毎年5月の定期公演会には全国から多くの地歌舞伎ファンが訪れており、竹原地区の魅力を発信する場となっている。

### ウ 農村文化の継承

約150年前から続く虫追い行事（松明立て）、節分の「鬼めぐり」、どんど焼き、各神社における祭礼等の年中行事の継承は、地区住民の絆を深めるとともに、故郷を大切に思う気持ちが子供世代へと受け継がれている。

### エ 竹原見どころMAPの発行

平成20年から年1回5,000部発行し、地区の全戸のほか、下呂温泉街の観光・宿泊施設、タクシー会社、コンビニ等に配布している。MAPでは、地区の見どころや行事の開催時期等を紹介しており、MAPを頼りに竹原地区を訪れる観光客が増加している。

### オ 都市住民との交流

地区の名所・旧跡、行事、観光農園は、都市住民との交流の場となっ

ている。

また、平成25年からは大阪市の修学旅行生を受け入れており、農業体験などを通じて住民との交流が図られている。

### (3) 地域への定住促進、女性の社会参画の促進状況

#### ア 乗政地区三ツ石集落

乗政地区の東の山中にある「三ツ石集落」は、戸数36戸、人口168人、人口のうち子供が45人である。人口に占める子供の割合が26.8%と、下呂市平均の15.2%に比べて10ポイント以上も高い。

当集落は、集落のことは住民全体で解決するという高い意識を持ち、子供のプール等を住民の手作りで建設するなど地域の生活環境の改善を行い、伝統行事等を継承する過程で子供たちのふるさとを守り育てる意識を醸成してきた。集落外から嫁いだ女性に対し、若い母親のグループが溶け込みやすい環境をつくるなど、住民の地区に対する強い思いが定住促進につながっていると考えられる。

竹原農地・水・環境保全会は、竹原地区全体において、三ツ石集落のように定住が促進し、子供の声が響き渡ることを目標に活動を行っている。

#### イ あしたば会

代表（男性）と地区の女性約20名で構成する組織で、月に2回、独居老人にふれあいの場を提供している。

また、ふれあい農園等で収穫された農作物を利用した弁当をつくり、年数回、独居老人に提供している。

#### ウ よしまきだんご講習会

子供を持つ母親を対象に、端午の節句に食べる「よしまきだんご」の講習会を開催している。この講習を受けた母親たちは、小学校で子供たちと一緒によしまきだんごづくりを行い、伝統食を継承している。



写真7 三ツ石集落の子供たち